

2017年 11月 20日

新宿区長 宛て

法人名特定非営利活動法人国境なき子どもたち
 所在地東京都新宿区下落合4-3-22
 (フリガナ) カイチョウ テラダ サエコ
 代表者氏名 会長 寺田 朗子

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	写真展「ストリートチルドレン～犯罪の犠牲者～」
実施日時又は期間	平成29年6月～9月 写真展：9月14日（木）～20日（水） ギャラリートーク：9月16日（土）
対象者の範囲及び人数	来場者数 287名
事業内容	<p>写真家の吉田亮人氏をフィリピンに派遣し、同国のストリートチルドレンや青少年鑑別所に収容されている子どもたちを取材、撮影し、そのポートレート70点（モノクロ・カラー）を展示した。会期中はギャラリートークを実施し、アナウンサー渡辺真理さんを司会に迎え、写真では伝えきれない子どもたちの生活や現状を来場者に伝えることができた。初日は高円宮妃殿下もお成りになった。</p> <p>ドゥテルテ大統領の麻薬撲滅などの過激政策でフィリピンが注目されているが、子どもたちの犯罪についてはあまり報道されていない。新聞テレビなどでは知りえないフィリピンの子どもたちの現状を、写真展という形式で訴えかけた。</p>
具体的な活動状況	<p>「国境を越えてすべての子どもたちに教育と友情を」というビジョンのもと、貧困や紛争、災害などで困難な状況にある子どもたちに教育や自己表現の機会を提供し、彼らの将来の選択肢をひろげ、その健全な社会参加を後押ししている。また、日本の子どもたちが世界の子どもたちの抱える現状を知り、多様な価値観を学び、お互いに支え合える次世代を育成している。</p>
事業の成果	<p>6日間の来場者は287名（一日平均48名）、うち新宿区在住の方は把握できただけでも18名以上の参加があった。ギャラリートーク参加者は46名。台風の予報で例年より少なめであったが質問も出て、参加者の意識の高さを伺うことができた。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 支払金額を確認できる領収書等（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			408,121 円
	参加費、資料代等	ギャラリートーク参加費 500 円×46 名		23,000 円
	その他の収入	募金箱、会場物販売上		77,374 円
	協働推進基金助成金	助成金交付額		200,000 円
	計			708,495 円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	0 円		
	宣伝費	0 円		
	リース費①	55,080 円	パイプ椅子レンタル費 300 円×100 脚=30,000 円 配送費 24,000 円 値引き△3,000 円 消費税 4,080 円	
	消耗品費	0 円		
	謝礼②	165,000 円	謝礼 15,000 円×11 日 8 月 3 日～7 日、9 月 13 日～18 日（10:00 - 18:00） （領収書は事業開始前からの分を含めて 216,000 円分）	
	人件費③	56,000 円	@4,000 円×1 名×14 日 8 月 3 日～7 日、9 月 12 日～20 日（各日 4 時間）	
	材料費	0 円		
	交通費④	61,584 円	①新幹線／京都～東京往復 52,320 円 ②在来線／自宅～京都、宿泊先～新宿御苑等 9,264 円	
	その他諸経費⑤	43,400 円	郵便代 62 円切手 700 枚	
助成対象事業費（小計）	381,064 円			
余剰金	円			
助成対象外事業費	327,431 円	写真家宿泊費、渡航費、オープニングセレモニー飲食費		

事業総額	708,495 円
------	-----------

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	台風天気と重なったこともあり、当初目標としていた人数を下回ってしまいましたが、意識の高い来場者にフィリピンの時事ニュースを伝えることができた。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	新宿広報を見ていらしてくださった方もいた。しかし新宿区内の中高生のクラス単位での来場がなかったため、来年は別のアプローチを検討したい。
費用対効果は適正であったか。	希少価値の高い情報を新宿から多くの人々に向けて発信でき、費用対効果も適正だった。
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	関心度と来場者数は比例すると考えられ、テーマの時事性（タイミング）やメディアでの掲載に大きく左右される。
理解者や支援者が広がったか。	新規登録者が 50 名増えた。来場者数に比べ募金箱の収入は良かったといえる。
事務局の執行体制は十分だったか。	妥当であった。
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取組がなされていたか。	今回も企業からの協賛を得ることができた。また、会場での募金箱や物販にも力を入れた。
その他	

4 活動の成果

* 事業の成果物(冊子等)、事業の開催時の写真等提出できるものがある場合は、添付してください。
* 参加者の意見等も報告してください。

6 日間の来場者は 287 名（一日平均 48 名）、前年比 76%。うち新宿区からは 18 名以上（全体の 6.3%、前年比 134%）だった。ギャラリートーク参加者は 46 名。台風の前報で例年より少なめであったが質問も出て、参加者の意識の高さを伺うことができた。

参加者の声

「どこに生まれても希望を持っていてほしいと思います。少しですが協力させていただきます」（40 代女性）

「フィリピンの人口は約 1 億人で、4 割が子どもだと初めて知りました。そのうち 180 万人がストリートチルドレンだということも」（40 代男性）

「現地で実際に撮影された写真を見ることによって現実に起きているという事実が伝わってきます」（50 代女性）

「ギャラリートークが素晴らしかったです。募金が役に立つといいです」（10 代女性）

「子どもたちの目がとても力強く、貧しくても尊厳は失っていないのだと感じました」（20 代男性）

「現在のフィリピンの青少年が置かれている状況が写真とキャプションを見て理解できました」（30 代男性）

会場の様子



ギャラリートーク



高円宮妃殿下久子様ご来臨

